

# 会 議 録

会議名	第10回まちづくり委員会		
開催日時	平成20年11月26日(水) 午後7時00分～9時00分		
場 所	消防署小会議室		
出席者 (敬称略)	(委員) 垣内勝司、根橋久子、牛丸喜美子、三堀善業、原美子、 倉田英勇、熊谷久司、小澤一智、赤羽武栄、山寺恭子、野沢宏 明、遠藤清文 (町) 宮原(修)、翠川	出席人数	
		委 員	13人
欠席者 (敬称略)	(委員) 中谷一美、小林代治	町	2人
		計	15人
会議次第	1. 開 会 2. 委員長あいさつ 3. 配布資料の確認 4. 協議事項 (1) 手引き書について 5. その他 6. 閉会		
資 料	(当日配布資料) ・広報たつの掲載記事案 ・手引き書案		
会議結果	○次回委員会 平成21年1月16日(金) 午後7時00分～		
発言者	発言の内容		
副委員長	開会		
委員長	<p>最近2つの研修会に参加しました。1つめは、女団連主催の豊南短大森本先生の講演会に参加しました。地元に着した良い内容で、特に「地元を誇りを持とう」という副題で、具体的な課題について示唆をいただいた感じがします。参加者は少なめでもったいないなと感じました。</p> <p>もう一つは、松本大学で行われました「21世紀チャレンジ事業」ということで特にまちづくりを中心としたセミナーがありました。長野県の観光課で行っている「ザガット」について課長の話を聞きました。内容については信毎にも出ていましたが、長野県の観光の入り込みはピーク時の80%位で、経済効果は70%、満足度は40%ということで、これでは長野県の観光は良くならないということでした。観光課では長野県を「食の都」にしたいということで、ザガットに働きかけ、日本で初めて取り組まれるということになったそうです。テレビでもやっていましたが、自宅でインターネット注文をしたものがスーパーから届くというサービスもあり、これが新しいビジネスであり、コミュニケーションなのかなと感じました。まちづくりというのは人と人のつながりが重要であり、それによって町が活性化していけば良いと思います。今日は具体的な手引き書づくりに入っていきます。</p>		

	協議事項
委員長	資料として手引き書のたたき台をお配りしました。 まず、提案された方に説明をいただきながら進めていきたいと思います。 その前に事務局から今後の日程について説明頂きたいと思います。
事務局	事務局では、今年度中に手引き書の作成していただければ、21年度から活用できるのでそのような日程でお願いしたいと思います。
委員長	ということで、3月までにまとめられればと思っています。 それでは、A委員に説明をお願いします。
A委員	今回は啓発を目的とすることで、作ってみました。協働の目的については入れた方が良いかどうか検討していただきたいと思います。 A3の一面を使って具体的な協働事例を写真やイラストを使って紹介。また、周りに指針の中にある協働のかたちを入れてみました。内容については委員会での協議が必要だと思っています。 あと必要な項目として、協働を広めるため進めるための活動や事業があれば載せればと思います。ここにはまちづくり委員会などがあたると思います。 裏面には、協働の手がかりとして、出前講座や制度などを紹介。それと協働の相談窓口を載せたらどうかと思いますのでご意見をお願いします。
委員長	A委員から提案をいただきましたが、配置についてお気づきの点がありましたらお願いします。
A委員	協働を広めるための事業はどのようなものがあたるか検討が必要だと思っています。
委員長	字数を少なくするとすると、指針から要点を拾って挙げるしかないのかなと思います。文字だけでは抵抗があると思いますので、写真とイラストを入れるという手法でカバーしたいと思います。
B委員	辰野町の良いところの紹介を入れられれば良いと思います。
委員長	字のフォントはボランティアセンター並みで、写真は指針で使ったものでも良いと思います。
A委員	協働についての説明をどの程度入れるか検討が必要だと思っています。なぜ協働のが必要になったのかという部分を入れほうが良いかどうか。
委員長	ある程度は必要でしょう。表紙にいれるという方法もあると思いますが。 題名も何か考えた方が良いのかもしれない。 皆さんいかがでしょうか。

C委員	<p>手引き書としては、これでは軽すぎるような気がします。手引き書とするならもつと内容があった方がよいかと思います。</p> <p>表題としては「みんなで一緒にまちづくり」というようなのはどうでしょうか。</p> <p>表紙には、輝いているような笑顔があればいかがでしょうか。</p>
D委員	<p>テーマをひとつにということを考えていたので、たたき台にあるような「みんなの力でまちづくり」というのはとても良いと思います。</p>
E委員	<p>表題としては「みんなが主役」というようなものがよいのでは。</p> <p>表紙として、ロゴマークが入ると親しみやすいと思います。</p>
F委員	<p>表紙には、なぜ協働が必要かということが理解できるような文章があればどうでしょうか。</p>
G委員	<p>表題としては「みんなが主役のまちづくり」として、副題で「協働の手引き書」という言葉をいれてみてはどうでしょうか。</p>
H委員	<p>くどくど書いてしまうとなかなか手に取ってくれないので、なるべくすっきりした形で出せば良いと思います。</p>
I委員	<p>見た時の印象が大事だと思いますので、協働について端的に表現できる語句を使うことが良いかなと思います。</p>
B委員	<p>手引き書ということであれば「一緒に」や「主役」という言葉を使えばかなり良い雰囲気になると思います。</p>
J委員	<p>「協働のまちづくり」を大きく書き、その下にどのような町にしたいかという思いを入れたらどうでしょうか。例えば「住みたいまちづくり」や「芸術文化のまちづくり」のようなテーマや目標など。</p>
A委員	<p>やはりイラストがあった方が良いと思います。</p> <p>あとは「人もまちも自然も輝く」や「みんなの力でまちづくり」のような言葉もよいと思います。</p> <p>先ほど出た目標を入れるのも方法のひとつだと思います。</p>
副委員長	<p>「協働ってなあに」と大きく入れて、その下に「みんなが主役のまちづくり」そして、ぴっかりちゃんを入れたらどうかと思います。</p>
委員長	<p>十人十色でありまして、表紙が一番大事なところなので、指針の時もたくさんの意見が出て、議論をした経過があります。</p> <p>県のほうでは知恵袋という表現をよく使いますが、堅苦しい表現よりも軟らかい表現が良いかと思います。手引き書を全く新しいものにする方法もありますが、指針の内容もある程度反映させたいと思います。</p>

G委員	私は先ほど出た、表紙にどのような町にしたいか入れるというのはやめた方がいいと思います。記載されていない事例やその他のページに影響が出てきてしまうと思います。
C委員	ボランティアセンターのパンフレットと協働の手引き書の違いは、ボランティアセンターには建物があって推進しているが、まちづくりは建物がないし、進めていくものがないと言うことがとても大きな違いだと思います。
委員長	確かにボランティアセンターのものは、案内書ですね。
C委員	ボランティアセンターには、パンフレットに載っているものが実際に行けばそろっている。しかし、協働は、話し合いをして学習をして実行しましょうとなっているので、やりたくても自分一人ではできないという考えになってしまう恐れがある。なので、手引き書を開いた時に自分はどうすればよいのかということが分かるような内容のものが欲しいと思います。 1ページ1ページがとても大切なので、まちづくり政策課が推進していくのであれば各ページに載せていけばよいと思いますが、格となる場所が見えないと難しいと思います。相談先等を明確に示さないと難しい。 町でも相談はここという場所を決めておかないと推進はむずかしい。 協働の活動をしている組織は、登録のようなことをしておかないと把握が難しい。
A委員	協働について一本化が出来ていないのでそういう問題になる。まちづくり委員会で出すのであれば、まちづくり委員会で協働について一本化しているのかということになってしまう。
委員長	これは以前も議論されている。何をどこまでというのは、すべてをピックアップは出来ないと思います。
E委員	相談先は、みんなでやるものなので、相談先は全課が絡むように記載しなければならないのかなと思います。
A委員	表紙を作るにあたっては根本が決まっていなければむずかしい。それによって辰野町といれるかまちづくり委員会といれるかも変わってくる。 本当は協働について一本化されていないと推進されないと思うが、現在の辰野町では一本化されていない、しかも今後もまちづくりについては行政自身も手探りだと思う。どの課にもわたるのでとりあえずまちづくり政策課でやっているが、センター化も一本化もされていない。本当はどの課からも課員が出てきて協働のプロジェクトチームのようなところが担うべきだと思うがそこまで町はしていない。その今の現状の中でいかに進めるかをやるしかないと思う。本当はその部分が一番大事だと思うが。

委員長	この議論は2・3年かかってしまうので、とにかく手引き書を作るという目標で、指針のダイジェスト版というように考えてお願いしたいと思います。
A委員	指針のダイジェスト版と考えるならば、指針の内容をどこまで拾うのかを決めないとならないし、それよりも一歩前に進めるならばもっと具体的に載せなければならぬと思います。
C委員	それは決まっているのではないですか。 それを言い出したらまた戻ってしまう。
A委員	協働を進めるためのものと言うことで決まっていたよね。なので今回はたたき台として一歩進めた資料を用意しました。 相談先を入れるとしたら、掲載予定の機関にその旨を伝えなければならない。
事務局	相談窓口については、一本ではないという話はこれまで何度も出ていました。そのために手引き書には『こんな時は』ということで例として載せると決まったはずですが、何を載せるかはこれから話し合ってくださいとして、窓口を一本にという話をまたされてしまうと、元に戻ってしまいますので思い出しながらお願いします。
E委員	それでは、表紙には委員会名を載せてはいかがでしょうか。
C委員	私は絶対反対です。横須賀ではサポートセンターがメインで作っていました。ということはおくまで、まちづくり政策課だと思います。広報の協働コーナーにも問い合わせはまちづくり政策課と書いてあります。 委員会では難しいと思います。
委員長	という意見もありますがいかがでしょうか。
I委員	日本の政治は各省庁ごと別々なのですが、ただ窓口はいったんまちづくり政策課ということにして、そこから紹介してもらえるような方法にするかどうかということだと思います。手引き書については、リーダーとしてやっていく所の名前を載せれば良いと思うので、難しく考え出すとどうかなと思います。
委員長	責任問題というよりも、指針の最後に手引き書を作成するとあって、そこからスタートしたので表紙はまちづくり委員会が良いと思いますが。 まちづくり政策課には庁内の横のつながりをしっかりしてもらい、手引き書については委員会で作るということはいかがでしょうか。
B委員	指針に基づいて手引き書を作っているのもまちづくり委員会ということで良いと思います。内容についても我々が説明できないことは載せる必要がないと思いますし、その場合は窓口紹介で良いと思います。 「みんなの力で」という言葉は掲載した方が良いと思います。

委員長	たたき台に1から5の番号を振って、それぞれのページについて委員の皆さんに意見をお願いしたいと思います。12月19日までに提出して頂き、次回の委員会で検討したいと思いますのでよろしくお願いします。
A委員	協働を進めるための事業は何がよいか検討したかったのですが。 思い当たるのはまちづくり委員会ですが。
委員長	町や県で行っている出前講座もこれにあたると思います。 セミナーもあると思いますが。
事務局	3ページ目は縦割りという方法もありますので特にこのたたき台の分割方法にと らわれずに検討頂きたいと思います。
委員長	今回は皆様から出された意見について検討したいと思います。 今回は、1月16日（金）にお願いします。
副委員長	閉会